

# 本社機能の地方移転に伴う 転勤者の生活実感に関する調査分析

不動 友輝<sup>1</sup>・加藤 博和<sup>2</sup>

<sup>1</sup>学生会員 名古屋大学 工学部 (〒464-8601 愛知県千種区不老町)

E-mail: tfudo@urban.env.nagoya-u.ac.jp

<sup>2</sup>正会員 名古屋大学大学院教授 環境学研究科 (〒464-8601 愛知県千種区不老町)

E-mail: kato@genv.nagoya-u.ac.jp

近年、日本では東京一極集中の是正の観点から、地方への本社機能の移転が期待されているが、「移転に伴う転勤者」（本論文では単に「転勤者」と称する）の地方での生活実感を分析した研究はみられない。そこで本研究では「転勤者」と「本社機能移転に伴う転勤を経験していない従業員」（本論文では単に「非転勤者」と称する）を対象に、地方生活の満足度を尋ねるアンケートを実施し、その結果を両者間で比較することで「転勤者」の生活実感を分析した。その結果、『買い物』や『医療・老後』の生活観点で「転勤者」は大きな不満を抱いていること、及び『移動』『子育て』『医療・老後』といった東京と地方では環境が大きく異なる生活項目で「転勤者」と「非転勤者」の間に感じ方の差があることが示唆された。

**Key Words:** relocation of the headquarters, relocated workers, living conditions

## 1. 研究の背景と目的

近年、日本では企業の東京一極集中と、それに伴う地方衰退が問題視されている。そこで日本政府は平成 27 年に「まち・ひと・しごと創生基本方針」の中で、地方創生施策による東京一極集中の是正に取り組むことに言及し、この地方創生施策の一つとして税制優遇による「本社機能の地方移転」を掲げたり。

またこのような施策とは別に、近年では新型コロナウイルスの感染拡大に伴うテレワークの普及により、東京でなくとも勤務可能な環境が次第に整えられつつある。

これらの背景から、日本では本社機能の地方移転の下地が整いつつあると言える。しかし、本社機能の地方移転に伴い、「東京から地方へ転入した従業員」（本論文では単に「転勤者」と称する）は、東京から地方のライフスタイルへの順応を余儀なくされ、大きな負担となる可能性がある。したがって、企業の本社機能移転を円滑に進めていくためには「転勤者」の『生活に対する満足度』を低下させることのないような施策を行う必要があり、そのために実例における「生活実感」とその理由を調査することが有用である。

そこで本研究では、実際に本社機能の地方移転を行った企業の従業員を対象に、地方での「生活実感」を尋ねるアンケート調査を行うことで、「転勤者」と「本社機

能移転に伴う転勤を経験していない従業員」（本研究では単に「非転勤者」と称する）の地方での生活実感の差と、その背景にある理由を把握することを目的とする。

## 2. 既往の研究と本研究の位置づけ

佐藤(2007)<sup>3</sup>の研究では、転勤に伴う「単身赴任世帯」に着目して生活実態を調査しており、本研究で対象に含む「家族帯同で地方へ移住した者」の考慮はされていない。また大橋ら(2011)<sup>4</sup>、日野(2013)<sup>4</sup>の研究では、「自分の意志で地方へ移住した者」を対象としており、本研究で対象とする「企業の事情により地方へ移住した者」とは異なる。本研究では「転勤者」と「非転勤者」を対象とした上で、本社機能の移転に伴う「転勤者」の地方での生活実感の把握を試みる。

## 3. 本研究で対象とする本社機能移転の事例

本研究では、YKK 株式会社（本社：東京都千代田区）の本社機能の一部移転を事例に取り上げる。YKK 株式会社の本社機能移転推進担当者へのヒアリング（2022 年 9 月 12 日）によれば、この事例は 2011 年より東京本社

表-5.1.1 富山での生活の満足度

項目	転勤者 平均	非転勤者 平均	p 値
『①移動』	2.84	2.76	0.662
『②食事』	2.98	3.06	0.596
『③住環境』	3.27	3.06	0.175
『④子育て』	3.35	3.03	0.243
『⑤買い物』	2.76	3.08	0.128
『⑥医療・老後』	2.61	2.51	0.568
『⑦憩い』	2.80	2.57	0.248
『⑧交流』	2.95	2.69	0.171
生活全般	3.36	3.31	0.776

表-5.2.1 富山での車の保有の満足度

項目	転勤者 平均	非転勤者 平均	p 値
車の保有にかかる 維持費	2.74	2.50	0.434
駐車場代金	3.22	3.85	0.081

の一部機能を元々拠点のあった黒部事業所（富山県黒部市）へ移転させたものであり、2016年4月までに約230名の社員の異動が完了した。またこの事例の特徴として、企業が移転に合わせて転勤者の「生活改善施策」を行っている。YKK株式会社は転勤者の『移動』の改善を目的として黒部市との協働による通勤バスの整備、『住環境』の改善を目的として社宅の整備、『子育て』の改善を目的として託児所の設置を行っている。

#### 4. 社員アンケートの概要と分析方法

##### (1) 社員アンケートの概要

本社機能の地方移転に伴う転勤者の生活実感を調査するため、本研究では黒部事業所で勤務する YKK 株式会社の従業員に対し、地方生活に関するアンケートを実施した。なお、アンケートの回答者は東京からの「転勤者」と、東京からの転勤を経験していない「非転勤者」の両方を含んでいる。

このアンケートは全 10 章で構成されている。第 1 章は回答者の属性（性別、居住地域等）に関する設問、第 2 章は富山での生活全般の満足度を尋ねる設問、第 3 章から第 10 章は「生活の 8 観点」（『①移動』『②食事』『③住環境』『④子育て』『⑤買い物』『⑥医療・老後』『⑦憩い』『⑧交流』）について、それぞれの満足度や求める施策を尋ねる設問である。この「生活の 8 観点」は、大橋ら(2011)<sup>9</sup>が用いていた「国民生活選好度調査（内閣府）」での「10 の福祉領域」と、本社機能移転の業務に携わっていた YKK 株式会社の担当者へのヒアリング（2022 年 9 月 12 日）から得られた結果を参考に設定されたものである。

アンケートは 5 段階別で満足度を尋ねる「5 件法」による設問、択一形式で尋ねる設問、回答者が自由に回答する設問の三種類から構成されている。アンケートは 2022 年 12 月 1 日から同年 12 月 16 日の 16 日間で実施した。また、実施方法はウェブアンケートによるもので、YKK 株式会社の担当者を通じてアンケートの URL を「転勤者」「非転勤者」それぞれ 60 名に送付し、「転勤者」44 名（回答率：73.3%）、「非転勤者」51 名（回答率：85.0%）から回答を得られた。

##### (2) 分析方法

本研究では「転勤者」と「非転勤者」の感じ方の差より「転勤者」の生活実感を把握するため、5 件法によるアンケートの結果を整理するにあたりマン・ホイットニーの U 検定を用いる。この検定により、2 群間の傾向に違いがないという仮説での確率値（p 値）から、群間の差の有意さを求める。本研究では p 値が 0.100 以下（有意水準 10%）を二群間の差が有意なものとして整理する。各項目は基本的に「転勤者」「非転勤者」の二群で比較する。5 件法による設問は「非常に満足」を 5 点、「やや満足」を 4 点、「どちらとも言えない」を 3 点、「やや不満」を 2 点、「非常に不満」を 1 点として集計した上で検定を行う。また自由回答形式の設問の結果は、類似内容同士をまとめる形式をとり、以降では回答数が 2 名以上の項目のみを取り上げる。

#### 5. 社員アンケートの結果

##### (1) 生活全般に関する項目の分析結果

「生活の 8 観点」の満足度、および富山での生活全般の満足度を 5 段階評価で尋ねた結果を整理すると、表-5.1.1 の通りになる。このうち「『④子育て』に関する満足度」を尋ねる設問は、富山で子育て経験のある「転勤者」18 名、「非転勤者」30 名に対してのみ実施した。いずれの項目も「転勤者」「非転勤者」間に有意水準 10%で有意な差はみられない。一方で、「転勤者」の満足度の平均値の大小を比較すると、『⑤買い物』『⑥医療・老後』の観点で低い値をとり、また『③住環境』『④子育て』の観点で高い値をとっていることが分かる。

##### (2) 「移動」に関する項目の分析結果

富山での車の保有に関する設問の結果を表-5.2.1 に示す。「転勤者」の方が『駐車場代金』に不満を感じていることが分かる。これは東京では車を保有していなかったため、駐車場を借りる経験をしておらず、駐車場料金を支払うことに抵抗があるからだと考えられる。

次に、富山県内での公共交通機関に対する感じ方を尋ねる設問の結果を表-5.2.2に示す。このうち『子どもを同伴させにくい』という項目は、富山で子育て経験のある「転勤者 (n=18)」「非転勤者 (n=30)」の二群に分けて比較した。またこの設問では「非常にそう思う」を5点、「ややそう思う」を4点、「どちらとも言えない」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「全くそう思わない」を1点として集計した。

特に「非転勤者」の方が『公共交通での移動に子どもを同伴させにくい』と感じていることが分かる。また平均値の大小で比較すると、両者とも『公共交通機関の時刻を気にして行動しないといけない』『天候を気にする必要がある』との項目で大きな不満を抱えていることが分かる。

次に自由回答形式で、富山での「移動」で満足する点と不満な点を尋ねた結果を表-5.2.3に示す。両者ともに『車を保有すれば富山での移動は便利である』との回答がみられる。一方で、富山での移動の不満な点として両者ともに『公共交通が不十分であること』や、『飲酒を伴う食事後の帰宅方法に困る』、『冬場の移動に困る』との回答がみられる。

(3) 「食事」に関する項目の分析結果

富山での昼食、夕食、休日の食事について尋ねる設問の結果を表-5.3.1に示す。いずれの項目も両者間で有意水準10%で差はみられない。一方で平均値の絶対値で比較すると、昼食・夕食時の『店舗の少なさ』の満足度が両者とも低いことが分かる。

次に自由回答形式で、富山での昼食、夕食、休日の食事での満足な点と不満な点を尋ねた結果を表-5.3.2に示す。「昼食」では両者ともに『社員食堂が充実していること』を満足な点として言及している。一方で不満な点として、両者ともに『事業所近隣店舗が少ないこと』を挙げている。夕食では両者ともに『地物を食事できること』を満足な点として言及しているが、一方で両者ともに『飲食店が少ないこと』や、『店舗の閉まる時間が早いこと』を不満な点として挙げている。

休日の食事では「転勤者」の方で『地物を食事できること』を満足な点として言及している。一方で両者ともに『飲食店が少ないこと』を不満な点として挙げている。

表-5.2.2 富山での公共交通移動の感じ方

項目	転勤者 平均	非転勤者 平均	p 値
公共交通機関の時刻を気にして行動しないといけない	4.48	4.69	0.716
天候を気にする必要がある	3.86	4.04	0.763
移動費が高くなる	3.55	3.76	0.590
子どもを同伴させにくい	2.94	3.53	0.086

表-5.2.3 富山での「移動」の満足・不満な点

	転勤者	非転勤者
満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>車があれば対応可能(3名)</li> <li>渋滞がほぼない(2名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車を保有していると天候や荷物を気にする必要が無い(4名)</li> <li>店舗に駐車場が完備されており便利(2名)</li> </ul>
不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通の本数が少ない(5名)</li> <li>飲酒を伴う食事に行きづらい(5名)</li> <li>車以外の移動手段が考えられない(4名)</li> <li>積雪時の移動が大変(4名)</li> <li>目的地まで遠い(2名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通の経路や本数が少ない(15名)</li> <li>積雪時の移動が大変(9名)</li> <li>老後(免許返納後)の移動手段が限られる(4名)</li> <li>冬用タイヤが高い(2名)</li> <li>飲酒を伴う食事には代行が必須(2名)</li> </ul>

表-5.3.1 富山での「食事」に関する満足度

	項目	転勤者 平均	非転勤者 平均	p 値
昼食	事業所近隣の店舗数	1.89	2.04	0.516
	メニューの種類	3.00	3.06	0.889
夕食	事業所近隣の店舗数	2.20	2.00	0.277
	自宅近隣の店舗数	2.45	2.31	0.425
休日	自宅近隣の外食店舗数	2.36	2.24	0.525
	外食メニューの多様性	2.41	2.55	0.500

表-5.3.2 富山での「食事」の満足・不満な点

		転勤者	非転勤者
昼食	満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>メニューが安価(4名)</li> <li>食事がおいしい(3名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社員食堂の存在(5名)</li> <li>メニューが安価(4名)</li> <li>食事がおいしい(4名)</li> </ul>
	不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所近隣店舗が少ない(11名)</li> <li>メニューが少ない(3名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所近隣店舗が少ない(10名)</li> <li>メニューが少ない(2名)</li> <li>少量や軽食用のメニューがない(2名)</li> </ul>
夕食	満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>地物がおいしい(4名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地物を安価で食べられる(3名)</li> </ul>
	不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲食店が少ない(13名)</li> <li>東京よりチェーンの居酒屋が少なく金額が高い(2名)</li> <li>店舗が閉まる時間が早い(2名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲食店が少ない(13名)</li> <li>店舗の閉まる時間が早い(4名)</li> <li>日常的に通える店が少ない(2名)</li> <li>飲酒を伴う食事での運転手の確保(2名)</li> </ul>
休日の食事	満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>地物がおいしい(4名)</li> </ul>	2名以上の回答なし
	不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲食店が少ない(13名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲食店が少ない(14名)</li> <li>閉店が早い(2名)</li> </ul>

#### (4) 「住環境」に関する項目の分析結果

富山での住宅選択時に重視した事柄を家族帯同世帯のみに尋ねた結果を表-5.4.1に示す。この設問は富山で家族帯同している「転勤者 (n=22)」「非転勤者 (n=36)」の二群で比較した。また「非常に重視した」を5点、「やや重視した」を4点、「どちらとも言えない」を3点、「あまり重視しなかった」を2点、「全く重視しなかった」を1点として集計した。

『交通の利便性の高さ』と『間取りや築年数等の物件の特徴』は「転勤者」の方がより重視していることが分かる。このうち前者は東京という交通網が発達した地域から転勤してきたため、交通利便性の高い地域への居住をを求めるニーズが強いからだと考えられる。

次に自由回答形式で、富山での「住環境」での満足な点と不満な点を尋ねた結果を、表-5.4.2に示す。表-5.4.2より、両者ともに『積雪時の対応』を不満な点として言及する回答がみられる。さらに「転勤者」では『住宅の選択肢が少ないこと』を問題点に挙げる回答がみられる。

#### (5) 「子育て」に関する項目の分析結果

富山での子育てについて尋ねた設問を富山で子育て経験のある「転勤者 (n=18)」「非転勤者 (n=30)」で比較した結果を表-5.5.1に示す。このうち『未就学児』の設問では「富山で未就学児の子育て経験のある者」を対象にし、『小学生』、『中学生』、『高校・専門学生』の設問も同様に行った。なお『未就学児』の設問は富山で未就学児の子育て経験のある「転勤者」15名、「非転勤者」29名、『小学生』の設問は富山で小学生の子育て経験のある「転勤者」16名、「非転勤者」26名、『中学生』の設問は富山で中学生の子育て経験のある「転勤者」12名、「非転勤者」22名、『高校・専門学生』の設問は富山で高校・専門学生の子育て経験のある「転勤者」5名、「非転勤者」19名を対象とした。

未就学児の子育てでは「非転勤者」の方が『子どもを遊ばせられる公園の数・充実性』、『子ども用品を扱う店の数・充実性』により不満を抱いていることが分かる。また自由回答形式で尋ねたところ、回答者数は各1名ではあるものの、両者ともに『待機児童がゼロ』であることを満足な点に挙げており、一方で『子どもの遊び場の少なさ』を不満な点に挙げている。

小学生の子育てでは、「非転勤者」の方が『周りの習い事の数・充実性』、『公園以外の子どもの遊び場の数・充実性』に、より不満を抱いていることが分かる。また自由回答形式で尋ねたところ、「転勤者」の方では『離れた場所での習い事は、送迎が前提となること(2名)』が不満な点として言及されている。

中学生の子育てでは、両者の間に有意水準 10%で差

はみられない。また自由回答形式で尋ねたところ、両者とも不満な点として『スクールバスの不十分さ』に言及している。

高校・専門学生の子育てでは、有意水準 10%で両者の間に差はみられない。なお、高校生の子育てに関する設問は、「転勤者」のサンプル数が5と少ないことに留意すべきである。

表-5.4.1 住宅選択時に重視した事柄 (家族帯同世帯)

項目	転勤者 平均	非転勤者 平均	p 値
店舗や施設の充実度	3.13	2.82	0.351
交通の利便性の高さ	3.58	3.08	0.081
間取りや築年数等の物件の特徴	3.83	3.18	0.024
会社への近さ	3.46	3.05	0.137
プライバシーの保護	2.96	2.61	0.170

表-5.4.2 富山での「住環境」の満足・不満な点

	転勤者	非転勤者
満足	2名以上の回答なし	・自然が豊か(2名)
不満	・積雪時の対応に苦慮する(4名) ・住宅の選択肢が少ない(2名)	・積雪時の対応に苦慮する(4名) ・余暇を過ごせる店が少ない(2名)

表-5.5.1 富山での子育てに関する満足度

	項目	転勤者 平均	非転勤者 平均	p 値
未就学児	習い事の数・充実性	2.67	2.52	0.473
	託児所の数・充実性	3.13	3.24	0.747
	公園の数・充実性	3.60	2.93	0.056
	子ども用品店の数・充実性	3.20	2.62	0.071
小学生	塾の数・充実性	2.75	2.56	0.465
	習い事の数・充実性	2.88	2.41	0.079
	託児所の数・充実性	2.63	2.78	0.490
	公園の数・充実性	3.19	2.74	0.126
	公園以外の遊び場の数・充実性	2.63	2.22	0.037
	習い事の送迎	2.38	2.33	0.797
中学生	遊び場への送迎	2.63	2.52	0.501
	塾の数・充実性	2.67	2.45	0.493
	習い事の数・充実性	2.83	2.50	0.260
	託児所の数・充実性	3.08	2.82	0.284
	公園の数・充実性	3.08	2.86	0.340
	子どもの送迎	2.58	2.59	0.822
高校・専門	登下校時間・方法	2.75	2.59	0.556
	塾の数・充実性	2.80	2.47	0.336
	習い事の数・充実性	3.00	2.58	0.201
	遊び場の数・充実性	3.00	2.58	0.117
	子どもの送迎	2.60	2.47	0.701
	アルバイトの数	2.80	2.74	0.859

## (6) 「買い物」に関する項目の分析結果

本観点は選択式設問の設定が難しいため、自由回答形式のみで尋ねた。富山の買い物についての満足な点、不満な点を尋ねた結果を表-5.6.1に示す。両者ともに『新鮮な地物が手に入る』ことや『地物が安価』であることを満足な点として言及している。一方で、両者ともに『品数の少なさ』に不満を抱く回答がみられる。また「転勤者」では『百貨店等の大きな店が少ないこと』に不満を抱く回答がみられる。また「非転勤者」では『買い物に車が必要』であることに不満を抱く回答がみられる。

## (7) 「医療・老後」に関する項目の分析結果

富山での医療の満足度および富山での老後の暮らしへの期待と不安について尋ねた結果を、表-5.7.1に示す。なお老後の観点については、老後も富山に住むと決めている「転勤者 (n=15)」「非転勤者 (n=44)」で比較した。また老後の設問は「全くそう思わない」を5点、「あまりそう思わない」を4点、「どちらとも言えない」を3点、「やや不安である」を2点、「非常に不安である」を1点として集計した。

医療の観点では「転勤者」の方が『クリニックの数』について、より不満を抱いていることが分かる。また老後の観点では「非転勤者」の方が『免許返納による移動手段の減少』や、『通院にかかる労力の増大』、『買い物にかかる労力の増大』、『趣味を自由に行うことができない可能性』により不安を抱いていることが分かる。これは「非転勤者」は富山での生活が長く、地域の実情をより詳細に知っているため、富山での老後の暮らしを想像しやすいからだと考えられる。また表-5.7.1の平均値の大小を比較すると、「転勤者」の『趣味を自由に行えない可能性』の項目を除いた他の項目すべてで値が3.00を下回っており、富山での「医療・老後」のサービスレベルに両者ともに満足していないことが示唆される。

次に、自由回答形式で富山の医療と老後の暮らしについて満足な点と不満な点を尋ねた結果を表-5.7.2に示す。なお老後の観点は、老後も富山に住む予定の「転勤者 (n=15)」「非転勤者 (n=44)」で比較した。富山での医療の満足具合を尋ねる設問の回答では「転勤者」と「非転勤者」の間で、回答の内容の違いに大きな差はみられない。

また富山での老後の暮らしの満足具合を尋ねる設問の回答では、表-5.7.2より、両者ともに『老後の交通手段への不安』に言及する回答がみられる。また「非転勤者」では、『老人施設の不足』や『老後の趣味を行える環境にない』といった回答がみられる。

## (8) 「憩い」に関する項目の分析結果

本観点は選択式設問の設定が難しいため、自由回答形式のみで尋ねた。富山での憩いについて満足な点と不満

表-5.6.1 富山での「買い物」の満足・不満な点

	転勤者	非転勤者
満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>新鮮な地物が手に入る(8名)</li> <li>地物が安価(5名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新鮮な地物が手に入る(7名)</li> <li>地物が安価(5名)</li> <li>スーパーが多い(5名)</li> <li>地元農家直営所がある(2名)</li> </ul>
不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>百貨店等の大きな店が少ない(7名)</li> <li>店の種類が東京に比べ乏しい(2名)</li> <li>品数が少ない(2名)</li> <li>趣味・娯楽関係の品が少ない(2名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門店が少ない(8名)</li> <li>スーパーの駐車場が狭い(4名)</li> <li>買い物に車が必要(2名)</li> <li>こだわりの調味料や食材を入手できない(2名)</li> <li>店まで距離がある(2名)</li> </ul>

表-5.7.1 富山での「医療・老後」の満足度と不安感

	項目	転勤者平均	非転勤者平均	p値
医療	クリニックの数	2.75	2.98	0.081
	総合病院の数	2.57	2.41	0.480
	病院までの交通機関	2.55	2.53	0.801
老後	免許返納により移動手段の減少	1.83	1.20	0.016
	通院にかかる労力	2.50	1.60	0.022
	買い物にかかる労力	2.58	1.74	0.015
	趣味を自由に行えない可能性	3.33	2.20	0.005

表-5.7.2 富山での「医療・老後」の満足・不満な点

		転勤者	非転勤者
医療	満足	2名以上の回答なし	2名以上の回答なし
	不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院が少ない(8名)</li> <li>病院の待ち時間が長い(3名)</li> <li>総合病院が土曜休診(2名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度医療機関の不足(8名)</li> <li>車が無いと通院しにくい(2名)</li> <li>診療科によっては数が少ない(2名)</li> </ul>
老後	満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>静かな環境での暮らし(2名)</li> </ul>	2名以上の回答なし
	不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通手段の不足(8名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>免許返納後の移動の不安(12名)</li> <li>老人施設の不足(2名)</li> <li>老後の趣味を行える環境にない(2名)</li> </ul>

表-5.8.1 富山での「憩い」の満足・不満な点

	転勤者	非転勤者
満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が多い(3名)</li> <li>・運動施設の利用料金が安い(2名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が多い(3名)</li> </ul>
不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェが少ない(2名)</li> <li>・大型商業施設が少ない(2名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画館が少ない(5名)</li> <li>・(冬場など)室内で遊べる施設が少ない(3名)</li> <li>・休日に過ごしたい場所がない(2名)</li> <li>・大型商業施設が少ない(2名)</li> <li>・カフェが少ない(2名)</li> <li>・美術館がない(2名)</li> <li>・友人や家族と過ごせる場所がない(2名)</li> </ul>

表-5.9.1 富山での「交流」の満足・不満な点

	転勤者	非転勤者
満足	2名以上の回答なし	回答なし
不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民と関わる機会がない(4名)</li> <li>・知人がいない(3名)</li> <li>・行事情報がない(3名)</li> <li>・声が掛からない(2名)</li> <li>・時間が合わない(2名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民と関わる機会がない(4名)</li> <li>・イベントがない(4名)</li> <li>・周りに同世代の人が少ない(2名)</li> <li>・時間が合わない(2名)</li> </ul>

な点を尋ねた結果を、表-5.8.1に示す。表-5.8.1より、両者ともに満足な点として『富山の自然の良さ』に言及する回答がみられ、また「転勤者」では『運動施設の利用料金が安いこと』が挙げられている。一方で、不満な点として両者ともに『カフェの数が少ない』『大型商業施設が少ない』ことに言及している。また「非転勤者」の方では、『友人や家族と過ごせる場所がない』という回答がみられる。

#### (9) 「交流」に関する項目の分析結果

本観点は選択式設問の設定が難しいため、自由回答形式のみで尋ねた。富山での「地域住民との交流」での満足な点と不満な点を尋ねた設問の結果を、表-5.9.1に示す。「転勤者」「非転勤者」とともに、『地域住民と関わる機会が少ないこと』や、『地域のイベントの時間に合わない』等の意見がみられる。

## 6. 結論

本研究では、東京都心部にあった本社機能を富山県黒部市に移転した企業の従業員に対して実施したアンケート調査を通して、本社機能移転に伴う「転勤者」と「非転勤者」の地方での生活実感の差とその背景を把握した。本研究で得られた知見を以下に述べる。

- 1) 「転勤者」は、特に『買い物』や『医療・老後』の生活観点に大きな不満を抱いている。
- 2) 『移動』『子育て』『医療・老後』といった東京と地方では環境が大きく異なる生活観点では、「転勤者」と「非転勤者」の間に感じ方の差がみられる。

本研究では、アンケート項目として予め設定されたものについては「転勤者」「非転勤者」の感じ方の差異を定量的に評価したが、アンケートの自由回答により得られた結果については、両者間での感じ方の差を定量的に評価できなかった。したがって今後は、自由回答で得られた結果をアンケート項目に含めた上で、両者間の感じ方の差異を検証する必要がある。

**謝辞：**本研究は、YKK株式会社の協力により実施したものである。ヒアリングとアンケートに協力いただいたYKK株式会社の社員の皆様に感謝申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 内閣官房・内閣府総合サイト「地方創生」, [https://www.chisou.go.jp/sousei/mahishi\\_index.html](https://www.chisou.go.jp/sousei/mahishi_index.html), 2023年3月6日最終閲覧。
- 2) 佐藤厚：単身赴任を伴う転勤を従業員が受け入れていること，日本労働研究雑誌，561巻，pp.71，2007。
- 3) 大橋幸子，湯原麻子，神永希，高森秀司：地方部への移住者の価値観の特徴に関する研究，土木学会論文集F4 67巻，4号，pp.47-56，2011。
- 4) 日野正基：中山間地域における移住者の現状と課題－移住者の家計収支の観点から－，農村計画学会誌，32巻3号pp.360-363，2013。

(Received March 6, 2023)

## A STUDY ON RURAL LIVING CONDITIONS OF RELOCATED WORKERS FOLLOWING THE RELOCATION OF A HEADQUARTER OF A COMPANY

Tomoki FUDO and Hirokazu KATO